

社会貢献活動



マテリアリティの2019年度目標と実績

○：計画通り △：遅れあり

主な取り組み内容	2019年度目標	指標	2019年度実績	自己評価
地域・NGOなどと協働した活動の推進	社会貢献支出額：対経常利益(※1)比率1.0% ※1：MMC単体経常利益	対経常利益比率	3.28%	○

社会貢献活動方針

2020年4月三菱自動車は、多様化するグローバルな社会課題を受け、課題解決へのさらなる貢献をめざし、従来の活動を継承しつつも主要な市場との連携をより強化し、活動の幅を広げるため社会貢献活動方針を改定しました。

また、より多くの方に活動を知っていただくため、新たにコミュニケーションワード「STEP to the future」およびロゴマークを設定しました。

社会貢献活動ロゴマーク

STEPの分野の活動の輪が中心から広がる様子を表現しています。



社会貢献活動方針

三菱自動車は、「STEP『地域社会 (Society)』『交通安全 (Traffic safety)』『環境 (Environment)』『人 (People)』」の分野で、多様化する社会の課題にこたえるため、従業員ひとりひとりの持つ技術やノウハウ・製品を活用した継続的な社会貢献に取り組むことで、よりよい未来を描くことができる社会をめざします。

地域社会 - Society
地域のニーズに即した活動を通じ、地域社会の発展に貢献します。

交通安全 - Traffic safety
交通社会の安心・安全の実現に貢献します。

環境 - Environment
大切な地球環境の保全に貢献します。

人 - People
人々に寄り添い、笑顔あふれる生活の実現に貢献します。

社会貢献支出額・内訳(※2)

(単位：百万円)

	2017年度	2018年度	2019年度
地域社会	132	116	118
交通安全	10	8	21
環境	135	37	32
人	206	225	169
被災地支援	25	62	60
その他(※3)	33	33	43
支出額合計	540	480	442

※2：寄付金のほか、現物給付・従業員による活動・施設開放などを金額換算したものを含む。ただし、従業員が個人的に行った募金やボランティアなどの活動は含まない
2017年度および2018年度は、三菱自動車単体、2019年度は、連結の支出額

※3：スポーツ支援、三菱財団などへの寄付を含む



新型コロナウイルス対策支援

新型コロナウイルスの感染拡大防止支援のため、海外子会社では、医療機関などに医療従事者の移動用車両の提供や防護服、マスクなどの寄贈を行いました。

また、国内においては、三菱自動車の各事業所にてフェイスシールドを生産し、自治体や医療機関などに寄贈しています。

クルマの開発および生産で培ったノウハウや工場設備を活用し、世界各国の政府・自治体・関係機関と連携しながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて支援を続けていきます。



フィリピン運輸省に車両提供



寄贈したフェイスシールド

◆新型コロナウイルス感染症対策への支援

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/contribution/society/relief/covid-19/>

「三菱自動車STEP募金」および「マッチングギフト」の実施

2009年4月に導入した「三菱自動車STEP募金」は、三菱自動車グループの社員が自らの意志で定額を募金し、継続的に社会貢献活動に参加する仕組みです。この募金は、三菱自動車の社会貢献活動方針にもとづき、開発途上国や東日本大震災被災地における活動などを支援しています。また、「三菱自動車STEP募金」が行った寄付に対し、会社が同額を寄付する「マッチングギフト」も実施しています。



支援先

- 国際NGOワールド・ビジョン・ジャパン
- 公益財団法人オイスカ
- 公益財団法人みちのく未来基金
- 事業所近隣の幼稚園、保育園、小学校など

子どもフォーラム(※)の図書室兼集会所建設を支援

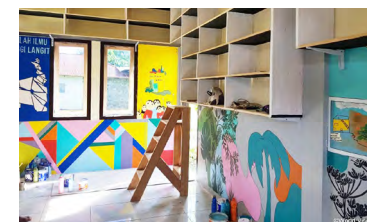
国際NGOワールド・ビジョン・ジャパンの協力を得て、インドネシア共和国北マルク州テルナテ市において、子どもフォーラムの図書室兼集会所の建設を支援しました。

子どもフォーラムの活動は、地域の変革の担い手となる好事例として地域に認められたことにより参加者が増え、活動が活性化されています。図書室および集会所が建設され

たことにより、安定的に集会を行える場所の確保ができるようになりました。

本支援により、子どもたちの豊かな成長に資する多様な活動の場になることを期待しています。

※：ワールド・ビジョンが推進・支援する子どもたちのコミュニティグループ。読み書きやライフスキルを学ぶほか、自分たちの学校や地域の課題を議論し、地域運営に生かすなどの社会参画活動を行う場



子どもたちのアイデアを盛り込んだ内装

「森の積み木」プロジェクト

子どもたちが木の温もりを感じ、創造性を働かせて遊べることを目的に、当社が森林保全活動を行う山梨県早川町を中心に同県のヒノキの間伐材で作った積み木を幼稚園、保育園などに寄贈しています。

また、新たに社員自身が縁のある幼稚園などへ積み木を贈る「社員プレゼンター制度」を開始しました。

2019年度は70カ所、2010年から累計325カ所に寄贈しました。



ヒノキの間伐材で作った積み木



地域社会 (Society)

地域防犯パトロール車として電気自動車を寄贈

岡崎製作所の周辺地域である愛知県岡崎市北野学区へ電気自動車 (EV) 『ミニキャブ・ミーブ』1台を青色防犯自主パトロール車 (通称：青パト) として寄贈しました。

青パトは、地域を巡回して防犯・安全活動に役立てられるほか、バッテリーに蓄えた電気は屋外イベントや非常時の電源として活用されます。



オリジナルのラッピングを施した車両の寄贈式

交通安全 (Traffic safety)

事業所地域における交通安全活動

事業所周辺道路において、社員による通勤・通学時間帯の交通安全立哨を定期的実施しています。

2019年度は各事業所合計で39回実施しました。

また、2019年4月には愛知県岡崎市で開催された「家康行列」に“三菱自動車交通安全隊”として参加し、沿道に集まった多くの方へ交通安全の呼びかけを行いました。



交差点での交通安全の呼びかけ

ベトナムで通学路に架ける橋の建設を支援

ミツビシ・モーターズ・ベトナム (MMV) はベトナム赤十字社と協力し、トイライ県に住む子供たちの通学路に橋を架けるプロジェクトに参加し、建設費用9.26億ベトナムドン (約420万円) を寄付しました。地元小学生は、小舟を使って川を横断して通学していましたが、事故を減らし、より安全に登下校できるようにという思いから、ベトナム赤十字が建設を担い、2020年3月に橋が完成しました。



通学路に架かる橋

子ども向け交通安全情報の発信

ウェブサイト「みんな知ってる?交通安全クイズ」

小学生向け自動車産業学習用ウェブサイト「なぜ?なぜ?クルマづくり調査団」内に、交通安全に関するページを設け、歩行中や自転車乗車中など、日常生活における交通ルールやマナーをクイズ形式で紹介しています。

2019年度は、昼間のシーンに加え新たに危険が高まる夕方のシーンを公開しました。



「みんな知ってる?交通安全クイズ」

(WEB) <https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/contribution/people/kids/anzen/>

環境 (Environment)

森林保全活動

首都圏の水源を守るとともに社員の環境意識を醸成することを目的に、公益財団法人オイスカと協働し、山梨県早川町において、森林保全やボランティア活動を通じた地域との交流に取り組んでいます。

2019年度は、早川町森林組合指導のもと、社員とその家族ボランティア延べ97人が下草刈りを実施したほか、新入社員80人が間伐や森林内の歩道整備などを実施しました。



植樹したエリアの下草刈り

インドネシアでEVを活用した実証実験に参加

2019年8月、インドネシアのスンバ島で、インドネシア技術評価応用庁と九電工が進めるエネルギーマネジメントの実証実験に、電気自動車 (EV) 『i-MiEV』1台・急速充電器1台と共に参加しました。ガソリンの確保が難しい離島内で、太陽光発電による充電や離島内でのEV走行データ蓄積など、EVによるインドネシアの人々の生活の向上の実現に貢献していきます。



実験に使用した『i-MiEV』



人 (People)

体験授業プログラム

「本物の体験を通じて楽しく学ぶ」をコンセプトに、2005年から毎年、社員を小学校に派遣し、クルマと環境問題の関係性を学ぶ「環境編」、ものを創る楽しさやクルマに携わる仕事を学ぶ「デザイン編」、工場でのクルマづくりや働く人の工夫を学ぶ「ものづくり編」の授業を行っています。

2019年度は119校6,872人、2005年から累計約4万2,000人が受講しました。



電気自動車の構造を学ぶ子どもたち

インドネシアで“One day parents”活動

三菱自動車・モーターズ・クラマ・ユダ・セールス・インドネシア (MMKSI) では、孤児への寄付とともに、社員がその日一日、里親となって孤児たちと触れ合う活動「Mitsubishi Children Program (MCP)」を実施しています。

2019年6月、西ジャワ州でMCPを実施し、MMKSIオフィス周辺にある3つの孤児院から5～10歳の孤児約100人を招待しました。社員のほか、経営陣もボランティアスタッフとして参加し、里親として子どもたちと触れ合いました。



社員と触れ合う子どもたち

被災地支援

アジアにおける支援

2019年9月、タイ東北部で発生し甚大な被害をもたらした熱帯暴風雨「ポードル (Podul)」の被災者支援のため、三菱自動車・モーターズ・タイランド (MMTh) は被災地域のディーラーと協力し、被災した5つの県と地方自治体に70万タイバーツ (約250万円) の寄付を行いました。ディーラーやMMThの社員とその家族も被災者支援活動に賛同し、飲料水や乾燥食品、医療用の救急キットなど物品による支援を行いました。

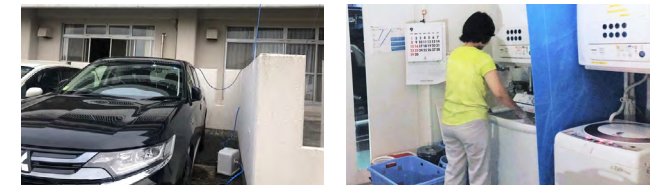


被災者への支援

日本における支援

三菱自動車では東日本大震災直後から被災地のニーズに耳を傾け、本業を生かした支援や日常の中で支援する仕組みをつくり、「忘れない・つながり続ける」をテーマに継続して支援を行っています。また、自然災害などの緊急事態に際しては、義援金の拠出、車両の無償貸与や社員によるボランティアなど、様々な支援を行っています。

2019年度は、「令和元年房総半島台風」で大規模停電が発生した千葉県内の福祉施設などに計12台の『アウトランダー PHEV』を貸し出し、生活家電への給電などに利用いただきました。今後も災害発生時の速やかな支援活動を継続していきます。



『アウトランダー PHEV』からの電力で洗濯機を稼働

2019年度の主な支援

	支援内容	支援先
2020年3月	新型コロナウイルス感染症 ・『ASX』3台、『エクリプス クロス』3台を寄贈 ・ハンドクリームなどの保護キットを寄贈 マスク製造ライン2式を寄贈 支援金 400万円 (※) 支援金 10万円	中国湖南省の医療機関など
		中国赤十字社
		国際NGOワールド・ビジョン・ジャパン
		愛知県岡崎市の医療機関
2019年10月	令和元年東日本台風	・義援金 1,000万円 日本赤十字社
2019年9月	令和元年房総半島台風	・『アウトランダー PHEV』12台を貸出 千葉県内の福祉施設など
	タイ熱帯暴風雨「ポードル (Podul)」災害	・義援金 70万タイバーツ ・支援物資 タイ ウボンラーチャターニー県、ヤソトーン県、ローイエット県、アムナートチャルーン県、シーサケート県

※「三菱自動車STEP募金」および「マッチングギフト」の合計



DENDOコミュニティサポートプログラム (自治体との災害時協力協定)

三菱自動車では災害発生時に改めて自治体と必要事項を確認する時間的ロスをなくし、給電などに活用できる当社のプラグインハイブリッド電気自動車『アウトランダーPHEV』といった電動車を速やかに被災地・避難所などへ提供できる体制づくりを全国で目指す「DENDOコミュニティサポートプログラム」を系列販売会社と共に推進し、自治体と災害時協力協定を締結しています。

2020年6月末時点では54(※1)の自治体と締結しており、今後2022年度までに全国の自治体と締結を目指します。

※1：系列販売会社と自治体 二者間の締結は除く



岡山県

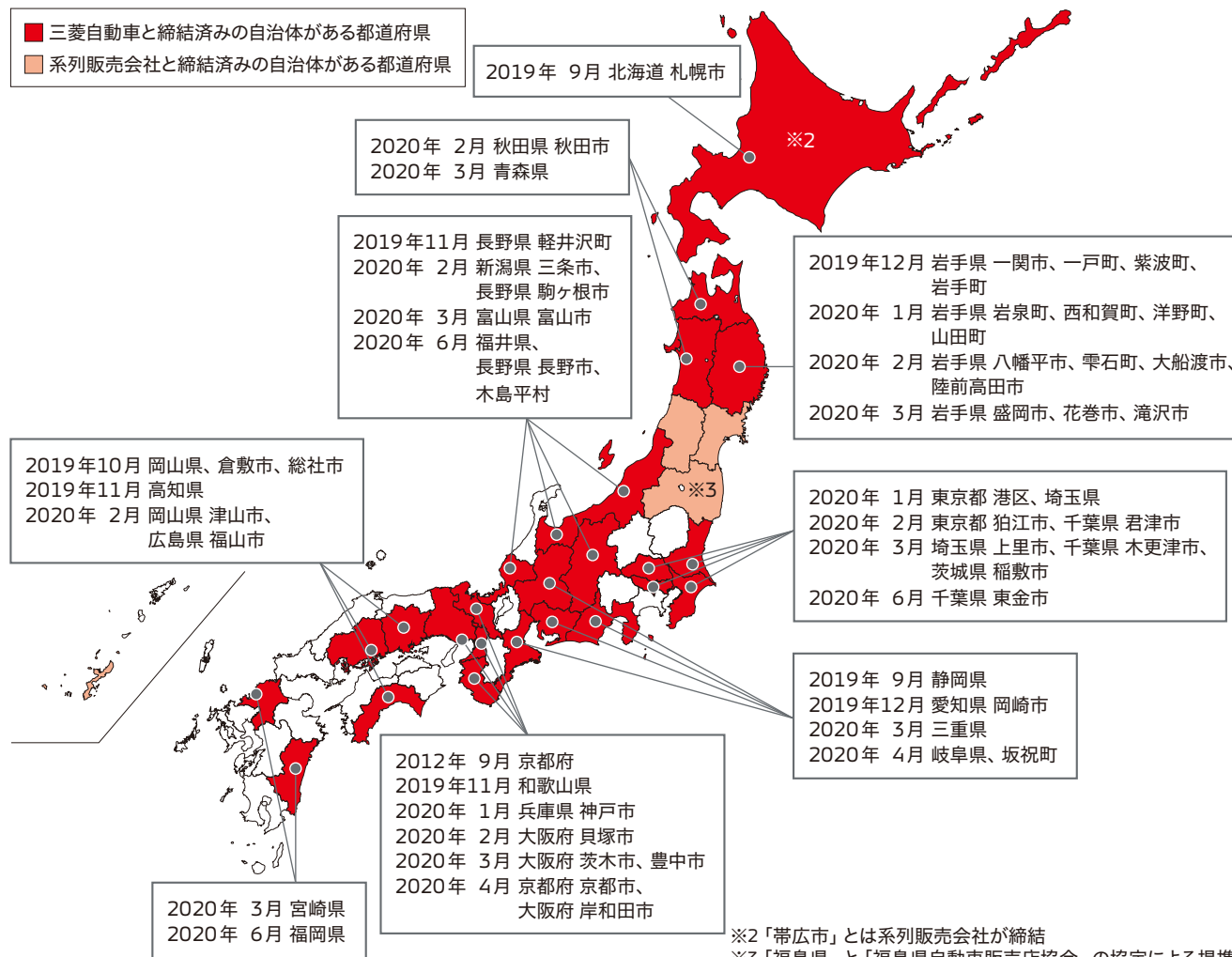


愛知県 岡崎市



東京都 港区

全国自治体との締結状況 (2020年6月末時点)



◆最新の締結状況

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/contribution/society/relief/dendo-csp/>